

## 協働のまちづくり協議会（第3回）議事概要

- 《日 時》 平成28年6月20日（月） 午前10時～12時  
《場 所》 教育委員会 京葉ガスF松戸ビル5階会議室  
《出席者》 犬塚 裕雅 会長、文入 加代子 委員、杉浦 利彦 委員、長江 曜子 委員、  
牧野 昌子 委員、江藤 政継 委員、郡 正信 委員、阿部 剛(参考人)  
《傍聴者》 1名

### 1 開会

※欠席者報告・委員会定数確認、新委員挨拶、諮問読み上げ、参考人の報告、傍聴者の報告、配布資料確認

### 2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

### 3 議 題

- (1) 平成27年実施分市民活動助成事業・協働事業の評価コメントについて
- ・事務局より、第2回協働のまちづくり協議会（事業成果報告会）について、報告を行った。
  - ・評価コメントについて前年度同様、委員の名前を伏せた形で団体及び担当課へ送付すること、並びにホームページに掲載予定であることを報告した。

また、事業成果報告会について委員より以下のとおり意見があった。

会長：情報の拡散が必要である。事業成果報告会開催後にも、広報まつどで取上げ、記憶の刷り込みをする、フェイスブックを使いリアルタイムの情報を発信するなどが考えられる。

また、良い活動を、他の団体が他の地域で行い、ノウハウを受け継ぎ、連携して水平展開すると良い。

委員：発表者同士での質問時間があれば、自身の団体の参考にもなるので良い。

委員：「社会的インパクト」が必要とされる中、事業の成果を可視化する必要があると感じた。

委員：市が活動の取り組みをいかに発信するかが大事である。

委員：もう少し発表時間を長く設けても良いのではないだろうか。

委員：せっかく素晴らしい事業、そして報告会を行なっているので、市内のケーブルテレビや記者会見、プレス発表を活用するなど、もっと工夫して広報していくべきである。

委員：団体の構成員の 1 人が辞めてしまうと活動が途絶えてしまうということが多々ある。活動を始めるだけでなく、発展させ、継続可能にする為の仕組みが必要である。過去の協働事業、市民活動助成事業に参加の同窓生に、事業成果報告会に来てもらうのも良いだろう。

(2) 協働事業第一次選考について

- ・事務局より、協働事業第一次選考の流れを説明した。
- ・協働事業第一次選考（第 4 回松戸市協働のまちづくり協議会）を非公開とすることが決定した。

(3) 第三次松戸市協働推進計画について

- ・事務局より、第三次松戸市協働推進計画策定までのスケジュールを説明した。
- ・策定に際し、第二次松戸市協働推進計画の流れをそのまま踏襲するのではなく、PDCA サイクルによる構成とすることを事務局より提案し、協議会に承認された。
- ・策定にあたり、事務局が重視する項目をビジョンとして提示し、承認された。
- ・平成 26 年度第 9 回協働のまちづくり協議会で挙げられた意見を、第三次松戸市協働推進計画に反映することを説明した。

また、委員より以下のとおり意見があった。

委員：事業者の社会貢献活動の促進について、市内に事業者は数多くあるので、青年部、女性部、商工会議所など、多くの方が来ている場に出前で PR をするなどの戦略を考えて PR をする必要がある。

委員：事業者の社会貢献といっても、資金の寄付だけが社会貢献ではない。企業の持つスキルを、地域課題解決にどう活かすかというマッチングも必要である。事業者は単なる資金提供者ではなく、協働のまちづくりのパートナーであることを PR していく必要がある。

委員：平成 27 年度アンケート調査では、市民活動に参加している市民の割合が、13・6%となっており、その活動形態の半分以上が、町会・自治会である。町会・自治会も市民活動団体の括りに含めているのであれば、もう少し町会・自治会との協働を計画の中に入れても良いのではないかと。

参考人：協働すれば良いというわけではなく、「社会的インパクト」という考え方として、協働することによって、行政コストがどれだけ減ったのかなど、成果・効果を数値として計らなければ、PDCA といってもチェックの仕様がでない。全部が全部数値として計れるわけではないと思うが、協働事業提案制度で行な

っているモデル事業だけでも、このような観点を踏まえてチェックをする等、評価の方法を考えなければ、今までと同じ様な結果になるのではないか。

委員：今までは、補助金により団体を支援することで、地域課題を解決する、という流れで行なってきたが、団体をひとつずつ支援しても、なかなか地域課題解決の可視化、また評価が出来ない。

そこで、「コレクティブインパクト」という考え方がある。たとえば、この地域の何丁目から何丁目の社会福祉協議会やNPO団体という様に、面的な支援をして、その地域にどういう影響を与えるのかという考え方である。団体支援から地域支援という流れが社会的インパクトの捉え方だと考える。

一つの団体で出来ないことを、町会・自治会含めさまざまな人たちと協働して、地域課題を解決していくという視点が、第三次協働推進計画では必要になってくるだろう。

会長：「社会的インパクト」の考え方には公式がなく、取り扱い変数によって変わるものであり、指標もまだ見えてないため、慎重に議論したい。松戸市の協働のまちづくりをさらに発展させるために、こうした方程式の議論も必要になってくるのだろうが、根拠を持って、データでもって見られるような用意をする必要がある。

#### (4) その他

- ・事業成果報告会を欠席した市民活動助成事業実施団体へのヒアリング結果を報告した。

#### 4 閉会